

－村史こぼれ話 4－

弥彦線開通と西川橋梁^{きょうりょう}

国鉄（現在はJR東日本）越後線・弥彦線の前身である越後鉄道は、大正元年（1912）8月に白山・吉田間がまず開通し、続いて柏崎・石地間、吉田・地蔵堂間、翌2年4月には出雲崎・地蔵堂間が開通して柏崎・白山間が全通した。これと同時に吉田駅は「西吉田」駅と改められた。

吉田から弥彦に至る支線は大正2年に敷設免許が申請された。国幣中社弥彦神社^{こくへいちゅうしゃ}の参拝者が年間40万人以上にのぼるため、ここに支線を敷設して参拝旅客をおもに輸送する目的をもって計画されたものであった。認可後、同区間は1916年10月16日開通した。これは弥彦大火（明治45年）による弥彦神社再建と同時であった。大正7年、西吉田から信越本線三条駅間の支線の敷設免許が申請された。その後、連絡駅が一ノ木戸駅（現東三条駅）に変更されたが、大正14年4月、12.6キロが開通した。昭和2年になって越後線も含めて全線が国に買収された。



弥彦線の矢作－吉田間の西川橋梁は、大正10年（1921）に国鉄から払い下げを受けた東北本線旧利根川橋梁の一部を転用したものであったが、昭和29年（1954）3月に老朽化のため撤去、福知山線第4武庫川橋梁の一部をカットして移築された。移築に際しもと支間29.972mとなっ

ている。なお、昭和57年（1982）には電化開通のため、橋門構を中心に改造工事が施工されている。橋桁には製造銘板^{めいばん}（英文）と改造銘板（和文）の双方が付けられている。英文は「PENCOYD IRON WORKS PENCOYD PA. U. S. A. 1898」の文字が判読される。このペンコイド社は明治中後期の日本各地にトラス橋を供給したアメリカ合衆国のメーカーである。（参考：『新潟県の近代遺産』『日本国有鉄道百年史』）